

# 安心して まよえる町…ましき

## 認知症地域支援フォーラム開催

2月18日、「認知症地域支援フォーラム」(町・町地域包括支援センター主催)が、町文化会館で町民380人が参加して開かれました。

平成19年度から2年間、県のモデル地域として指定された益城町が取り組んできた、認知症地域支援体制づくりなど様々な事業を総括する全体会として開かれたものです。

フォーラムでは、住永町長が「町民のみなさんで取り組んできた認知症支援活動は、今日の高齢化社会で、最も大切な仕事です。今後も町を挙げて続けていきたいと思います」とあいさつ。岩田宣行県高齢者支援総室長と中村健二町高齢者保健福祉推進委員会会長が来賓あいさつをしました。

続いて、認知症支援のシンボルマーク最優秀賞の福永太さんに記念品が、コーディネーターの堀光代さんと実行委員代表の高本征子さんに感謝状が贈られました。

基調講演では「見守り・声かけ・お節介」と題して益城病院長の犬飼邦明さんが講演「みなさんのさやかな一言が、どれほど認知症の方やご家族を支え、勇気付けることか。そして、まよいから解き放つことになるのか、心にとどめておいてください」と強調しました。

各実行委員会から、それぞれの活



各団体の代表たちによる意見発表

動の報告があり、「地域で暮らしたい」の寸劇では会場から笑いも起りました。

その後「誰もが安心して暮らせるまちを目ざして」と題して、先進的な取り組みをしている大牟田市の汐待律子さんが報告、これからの地域支援について町区長会、老人クラブ、婦人会、民生児童委員協議会、介護者の代表から意見発表がありました。

認知症については、県のモデル事業は終わりましたが、今後は地域包括センターを事務局に「認知症あつたかねつ」として活動は続けられます。

## 春！いよいよ本番

### 木山初市

3月7、8日、益城に春を呼ぶ恒例の「木山初市」が木山横町通り一帯で開催され、寒空の中、両日で約8千人の人出で賑わいました。この初市は、江戸時代に木山の商人たちが“市”という形で祭りを始め、約200年の歴史を持っています。

今年も通りでは、たこ焼きや焼き鳥、金魚すくいなどの露店が立ち並び、訪れた見物客や買い物客等が、楽しそうに足を止めて春を満喫していました。中でも名物「市だご」は今年も大盛況。注文が殺到し、長蛇の列を作っていました。

また、特設ステージでは、猿まわしショーやSALAHミニライブ、玄海竜二演劇ショーなどたくさんのイベントが催され、見物客等から盛んな拍手が送られていました。



寒空の中でも多くの人出でにぎわいました

## 卒業記念に手型制作

### 津森小卒業生の27人

津森小(西たよ子校長)をこの春卒業した27人は、卒業記念に自分たちひとりひとりの手型を作り、先生のメッセージとともに、思い出の品として末永く保存することにしました。

手型は、元老人会長の吉川有雄よしかわありおさんが提供したケヤキの板を使って、糸ノコで切り取ったもので「前進」(上村聡教諭)と「一人一人が大事な存在」(西校長)のメッセージも書かれています。

制作は、2月から図工の時間を使って続けられ、それぞれが思い思いの決意や誓いの言葉、楽しいイラストなども書き込みました。

児童達のために、アイデアと材料を提供した吉川さんは、ニス塗ったり、竹細工のホルダーを作ったりして見事な工芸品に仕上げました。



手型を制作中の卒業生たち